

「I'm dreaming of a white X-mas」

モニカ 後藤エヴィリン

クリスマスの曲はたくさんあります。中でも有名なのは、Rudolf the red nose reindeer, Jingle bells, We wish you a merry Christmas, White Christmas などです。どの唄も昔からクリスマスの定番曲となっています。なかでも "White Christmas" という曲が私のお気に入りです。

フィリピン生まれの私には、雪が降るのは夢のなかでしかありませんでした。特にクリスマス日に銀色に包まれる街ってどんなに素敵なところでしょう。そんな世界って本当にあるのかなって小さい時から想像していました。

日本に来て、やっと私が小さい時から毎年想像していたホワイトクリスマスが現実になります。そして、その年雪が降るのを期待していました。しかし、私が住んでいるところは冬といっても名古屋です。それでも、毎年クリスマスの日が近づくと、雪が降ってほしいといつも願っています。

初めて雪が降った時はすごくわくわくして、空から降ってきた雪は、ピカピカしていて、町中を銀色に変わって、あっと言う間に別世界のように感じました。その日はクリスマスではありませんでしたが、気分はホワイトクリスマスでした。

そんな私の夢神様がやっと叶えてくださいました。1995年12月25日空から舞い降りてきたぴかぴか輝いていた景色。その日はそんなに積もらなかったのですが、忘れられないクリスマスになりました。神様からの素敵な贈り物でした。

『不思議発見シリーズ』

ヤコボ 後藤 明憲

納骨堂の脇に洗礼盤が置かれています。八角形であることに気がついておられる方も多いと思います。

では、どうして八角形なのでしょう？何かこの八という数字に意味があるのでしょうか？

実は八はイエス様の象徴で、復活を意味する数字なのです。創世記一章には、天地創造をなされた後、七日目に神様は仕事を離れ、安息をなさたとあります。それが土曜日で、八日目の日曜日からまた新しい活動を再開されたと考え、この八という数字に復活の意味を感じ、象徴としたのです。ですから八角形は旧い人に死に、復活して新しい人となり、イエス様と共に生きる者になるという洗礼式にふさわしい形といえましょう。

昔は死を通過して復活をする象徴として、本当に大人の全身を水に

浸しました。そのために聖堂の外に大きな水盤がある洗礼堂が別に必要だったのです。有名なのが、キリスト教を公認したコンスタンティヌス大帝がローマに建設したラテラノ教会の洗礼堂で、八角形をしています。

天国の扉で有名なフィレンツェにあるサン・ジョヴァンニ（洗礼者ヨハネ）洗礼堂も同様です。幼児洗礼が一般化してきますと、現在の聖水をふりかける形式となつて、洗礼盤は小型化し、聖堂内部に置かれるようになりました。罪を赦され、共同体の仲間に入る第一歩の式ですので、洗礼盤は教会の入り口近くにあつて、そこで洗礼式をするようになったのです。

城北橋教会も現在の納骨堂になっているところに、洗礼盤が置かれ、アスキュー神父によって、初めての洗礼式が行われました。五十年史に写真が掲載されていますので確認してください。見るまでは信じないと言っていたトマスが復活されたイエス様と出会う信仰告白をしたのは、復活後の八日目、つまり復活節第二主日のこと